

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

平成23年度病害虫発生予察特殊報第2号を送付します。

平成23年度病害虫発生予察特殊報第2号

1. 病 名 **ブルースター青枯病 (仮称)**

2. 病原細菌 *Ralstonia solanacearum*

3. 発生物種 ブルースター(ルリトウワタ)

4. 発生経過

平成22年9月、高知県内の施設栽培ブルースターほ場において、株が萎凋して速やかに枯死する原因不明の障害が確認された。本障害は萎凋株の地上部や茎、根などに糸状菌が認められず、茎断面に多量の細菌が認められたため、細菌による新たな病害である可能性が示唆された。

農業技術センターで病原細菌の同定を行った結果、*Ralstonia solanacearum*による病害であることが確認され、病名として青枯病が提案された。

5. 他県での発生

本病原細菌は、様々な作物に感染することが知られているが、ブルースターで確認されたのは国内外で初めてである。

6. 病 徴

発病株は、はじめ下位葉に萎凋、黄化がみられ、徐々に上位葉へと進展する。症状が進むと下葉から落葉し、やがて株全体が枯死する。病勢の進展は速やかで、発症から通常10日程度で枯死に至る(図1, 2, 3)。

発病株の茎を切断すると、切断面から白色の菌泥が噴出し、切断面を水に浸けると細菌が糸を引くように流出する。ただし、ブルースターは茎から白色の汁液が出るため、判定には注意を要する。

7. 伝染方法

本病原細菌は土壌伝染する。また、植物体の傷口などからも接触伝染する。

8. 感染植物

ブルースター以外ではトマトへの病原性が確認されている。その他の作物に対する病原性は現在調査中である。

9. 防除対策

(1) 本病原細菌は土壌伝染するため、太陽熱や土壌くん蒸剤による土壌消毒を行う。

(2) 感染株は伝染源となるため、発見後は直ちに抜き取り、圃場内および野外に放置しないよう注意して、適正に処分する。

(3) 本病原細菌は接触伝染するため、罹病株とその周辺の株の管理は、最後に行う等の工夫をする。また、収穫作業等に用いる刃物などはうね毎にハサミを変えるなどの工夫をし、伝染させないように注意する。

お問い合わせは、病害虫防除所(担当:甲把 TEL 088-863-1132)または環境農業推進課(担当:朝比奈 TEL 08 8-821-4861 まで)



図1:初期症状(全身の萎凋)



図2:初期症状(下位葉の黄化)



図3:発病後期(萎凋、枯死)